

## 深圳レポート

### 「深中通道」、グレーターベイエリアの新しい東西経済ルート

広東省深セン市と中山市を橋と海底トンネルで結ぶ「深中通道」が、7年間の建設期間を経て、6月末に正式に開通した。グレーターベイエリアの大型プロジェクトとして注目され、全長約24キロメートルの海を跨ぐ集群工事で、「橋、島、トンネル、水中インターチェンジ」を一体化し、世界で最も総合的な建設難易度が高い工事の一つとされている。深中通道は深センと珠江西岸都市の通行時間を大幅に短縮し、特に深センと中山市間の車での移動時間が2時間から30分に短縮される。



出所: 聯合早報による地図

#### 地理的位置と戦略的意義

深中通道は虎門大橋と港珠澳大橋の間に位置し、珠江西岸の中山、珠海、江門などの都市を結び、深セン、東莞などと緊密な交通ネットワークを形成する。珠江西岸都市は深中通道を通じて、深センの経済資源と発展の恩恵を容易に共有できるようになる。

広東省は2022年に珠江エリアを囲む「黄金内湾」を構築し、広州、深セン、珠江西岸の三大都市圏の連携発展を促進することを提案した。この100キロメートルの経済圏には、香港、深セン、東莞、広州、中山、珠海、マカオなどの都市が含まれ、大湾区発展の中核地域とされている。広州、深セン、珠

江西岸の都市圏のGDP総量は広東省の五大都市圏の90%を占め、区域常住人口は8,000万人を超え、広東省の五大都市圏の75%を占める。

※「黄金内湾」とは大湾区の珠江エリアを囲む100キロメートル範囲の経済圏を指し、香港、深セン、東莞、広州、中山、珠海、マカオなどの都市が含まれ、大湾区発展の重要なエンジンであり、その地図の縮図とされている。

深セン市の前海エリアは深セン「黄金内湾」の中核地域として、発展空間がすでに限界に達している。深セン市の北側は土地が不足している東莞、西側は伶仃洋に面しており、さらなる拡張の空間がない。深中通道の開通は、深セン前海エリアに新たな発展の可能性を提供し、区域の土地制約を緩和し、広州南沙と珠海高新区を結びつけ、区域経済の一体化と連携発展を実現し、それで深センをより強くすることができるだろう。



出所: 「深センファン」

#### 経済影響と発展可能性

##### 通道経済と区域影響

深中通道の開通により、珠江エリア南、中、北の三線システムが形成され、それぞれ香港、深セン、広州が主導し、兩岸

の主要都市を結びつける。深センは中線の中核都市として、強力な経済成長の可能性を持ち、最大の総合影響力を発揮するだろう。北線の広州と南線の香港に比べて、深センは経済成長率と発展の勢いが最も強く、珠江エリア東西兩岸を結ぶ主要な通道となることが予測される。

なお、深中通道は新たな地域協力のルートも形成する。深センと珠江西岸都市との協力を促進するだけでなく、東莞、惠州などの都市にも新たな協力機会をもたらす。これらの都市は深中通道を通じて、深センと珠江西岸都市とより緊密な経済協力関係を形成し、地域内経済発展と産業のアップグレードを共同で推進することができるだろう。

### 投資と目標

中山市は深中通道の出入口に深中経済協力区を設立し、「橋経済」モデルを通じて、より多くの投資と企業を引き付けることを意図している。既に建設ラッシュができていて、いろんな投資誘致イベントも続々と開催されている。また、中山市の隣の江門市も10年以内に経済総量を1兆元突破する目標を掲げ、深中通道開通後の機会を迅速に捉え、経済発展を推進する準備をしている。

### 経済推進

深セン市のハイテク企業は珠江西岸に拠点を設立することで、深セン市内より低い土地と労働力コストを利用して、生産効率と競争力を向上させることができる。珠江西岸の企業も深中通道を通じて、より直接的に深セン市場に進出し、深センの技術と市場資源を享受し、自己のイノベーション能力と市場競争力を向上させることができる。珠江西岸の中山、江門などの地域は土地と労働力コストの優位性を持ち、深センの製造業と一部のハイテク産業を受け入れ、「深センの研究開発+珠江西岸の製造」という新しい産業モデルを形成することができる。

また、地域観光もさらに一層進むだろう。珠江西岸に住む住民は最速で30分の車程で空港を利用することができ、深セン宝安国際空港が直接恩恵を受ける。

### 通道開通がもたらす新しい機会

#### 経済データ

深センは2022年に工業生産高と進出入総額で上海を上回

り、強力な経済成長の勢いを示した。今年最初の4ヶ月で、深センの進出入総額は上海を超え、引き続き全国第一位を維持した。新エネルギー車とクロスボーダー電子商取引などの新興産業の急速な成長は、深センに新たな経済成長の原動力を提供した。2023年、深センの新エネルギー車の生産量は183.4%増加し、自動車製造への投資は325%増加した。また、深センはクロスボーダー電子商取引分野でも優れた成績を収めており、今年の第1四半期のクロスボーダー電子商取引進出入額は95%増加した。深中通道の開通はさらに多くの発展機会をもたらすだろう。

### 対外貿易の協調

珠江西岸の伝統的な製造業帯と深センの「外向型」産業チェーンは協調効果を形成し、区域内の対外貿易協力のレベルと質を向上させる。深中通道を通じて、珠江西岸の製造企業は国際市場に容易に進出し、深センの対外貿易資源とプラットフォームを享受し、市場競争力と輸出能力を向上させることができる。深センのクロスボーダー電子商取引企業は深中通道を利用して、珠江西岸での事業範囲を拡大し、物流効率とサービス品質を向上させることができる。この協調効果は区域内の対外貿易協力のレベルを向上させるだけでなく、珠江西岸の製造業のアップグレードと経済発展を促進する。

### 新しい実験場

深中通道の開通は区域経済の発展を大いに促進すること間違いなさだろう。例えば、深セン市の新益昌科技股份有限公司(LED、半導体製造などで有名)は中山翠亨新区に生産基地を設立し、「深セン本社+中山製造」の発展仕組みを形成した。2023年、同社の中山産業パークは全面稼働し、将来的には産業パークの規模が21万平方メートルに拡大することが予想される。

深中通道は大湾区兩岸の都市を縮めるだけでなく、将来の都市群の経済に新たな活力を吹き込む可能性を秘めている。グレーターベイエリアに進出している数多い日系企業にもコスト削減効果などの経済効果をもたらすことを期待する。

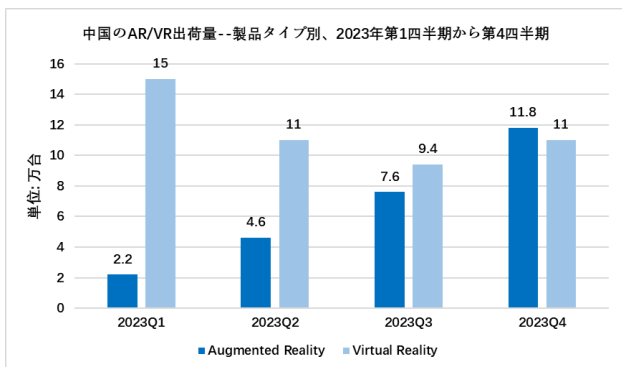
## Micro OLED生産のパイオニア—See YA 視涯科技

社名	視涯科技股份有限公司		英語名	See YA	
代表者	Tieer Gu	URL	<a href="https://www.seeya-tech.com/">https://www.seeya-tech.com/</a>		
所在地	安徽省合肥市新站区文忠路999号A5-103室				
売上(RMB)	—	従業員(人)	—	創業年	2016年
登録資本金	90,000万人民币元				
サービス内容	半導体デバイス、マイクロディスプレイデバイス、光学部品などの製品の研究開発、製造、販売				

視涯科技(See YA)は2016年に合肥市で設立され、Micro OLEDに関する技術の研究開発に専念してきた。今年2月、See YAの製品はAppleの認証を取得し、AppleのVision Pro専用のMicro OLED生産ラインを新設しており、今年第3四半期から供給を開始する予定である。See YAはAppleに製品を供給するだけでなく、DJIの重要なサプライヤーでもあり、FPVゴーグルやドローンのビューファインダーにOLEDマイクロディスプレイを提供している。その他の顧客には、XREAL、雷鳥(FFALCON)、Rockidなどのメーカーが含まれている。

※XREAL、雷鳥(FFALCON)、Rockidは、すべて中国のAR関連の会社

IDCなどの業界研究機関による予測によれば、2023年の中国市場におけるAR/VRヘッドセットの出荷量は72.5万台に達する見込みである。そのうち、ARデバイスの出荷量は26.2万台であり、前年同期比で154.4%増加する。2023年において、ARデバイスの出荷量は中国市場のAR/VR総出荷量の36.1%を占め、過去最高を記録した。これは、AI技術の進展に伴い、軽量化ウェアラブルデバイスが急速に成長し、新型ディスプレイ産業に大きな発展機会をもたらすことを示している。今年、See YAは0.6インチのディスプレイを新たに発売し、現在量産が可能である。



出所: IDC中国、2024

AR/VR市場の年間複合成長率は33%と予測されており、この市場におけるMicro OLED製品の浸透率は約10%~20%である。Micro OLED技術は高いコントラスト比、高解像度、低消費電力のため、AR/VRディスプレイの最適技術として選ばれ、カメラのビューファインダーや医療ディスプレイに徐々に応用されている。

See YAのOLEDマイクロディスプレイはすでに市場で広く利

用されている。写真愛好家にとって、この技術はより鮮明な画質と高い色再現性を提供し、肉眼で見たものと変わらないといっても過言ではない。See YAはこのマイクロディスプレイ技術を内視鏡手術に応用する努力をしており、近日中にサイクリング用に設計された折りたたみ可能なARメガネを発売する予定である。将来的には、シリコン基板のOLEDマイクロディスプレイ技術は、商業オフィス、医療、緊急救援、教育研修、産業インターネットなどの分野で広く応用されるだろう。

See YAのMicro OLED技術は、単結晶シリコンチップに赤、緑、青の有機材料を堆積することで、高い画素密度、軽量、低消費電力の表示効果を実現する。同社は現在、12インチの量産ラインを持ち、月産能力は約9,000枚で、来年には18,000枚に拡大する予定である。現在の良品率は約40%~50%であり、毎年10%ずつ向上する見込みである。Micro OLEDはAR/VRデバイスや電子ビューファインダーに広く応用されており、高いコントラスト比と低消費電力の利点を持っている。

国際市場では、Sonyが市場で50%以上のMicro OLED製品を供給しており、月産能力は10,000枚で、強力な生産能力を持っている。群智諮詢(シグマインテル)によれば、2022年の世界のMicro OLED出荷シェアではSonyが最大の65%を占めている。中国メーカーのSee YA、京東方(BOE)、国兆光電(Gzot)はそれぞれ10%、8%、3%を占めている。SamSungとLGは研究開発と設備段階にあるが、重要な競争者となる可能性がある。BOEは8インチの研究開発ラインと12インチの量産ラインを持ち、月産能力は10,000枚で、良品率向上段階にある。他の中国メーカー、例えば昆山夢頭、熙泰智能、湖畔光電などは8インチの研究開発ラインを建設中であり、まだ量産には至っていない。

競合他社の追い上げに対抗するために、See YAは良品率の向上と生産能力の拡大を継続し、大口顧客(例: Apple、DJI)との協力関係を維持する必要がある。SamSung、LG、BOEなどの競合他社と比べて、See YAは技術、生産能力、市場シェアにおいて一時的にリードしている。

現在までに、See YAは複数回の資金調達を完了しており、投資家にはXiaomi、DJI、Goertek、合肥創投、招銀国際金融(CMBI)などが含まれている。

## 日本での医療ツーリズム 中国の富裕層に人気

不定期に日本に足を運んでいる筆者に、周りの友人から代わりを買ってきてほしいものを頼まれますが、圧倒的に多いのはドラッグストアで買える化粧品と目薬などの医薬品です。しかも、日本で長年生活していた私でも聞いたことも、見かけたこともない商品を頼まれるのですが、実際買いに行ってみると品切れの時もしばしばありまして、海外のSNS上で人気でた日本の商品はすぐに爆買い対象とされていることを実感しています。

コロナ明けの中国人の日本観光が本格的に復帰してからは、団体旅行よりも個人旅行、特に富裕層の個人旅行の比率が上がっています。最近では、日本の化粧品や生活雑貨も中国で手軽に買えるルートが多くなったので、その代わりに日本のアンチエイジングなどの美容クリニックに対する関心度が高くなっているようで、その効果と費用を聞いて来る人が増えています。

数年前から、日本での健康診断・人間ドックやがん治療を求めている人は、それぞれ個人で日本の医療機関を探して対応可否を確認するケースがよく見られましたが、近年はいつの間にか、美容クリニック・幹細胞移植などの再生治療の本格的医療ツーリズムまでもが中国人向けにしっかりしたサービスに発展しており、医療通訳士・美容通訳士資格認定の資格コースを運営する一般社団法人もできています。

公開報道を見ると、例えば、愛知県の場合2023年度の外国人患者の受け入れ実績は22年度比で3倍に増え、その多くは中国人であり、中でも中国人富裕層らは1回500万円程度かかる神経疾患の先端治療や、患者の負担が少ないロボット手術などを求めて訪れているようです。

唯来企業管理諮詢（深圳）有限公司  
副總經理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。  
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



富裕層向けの日本医療ツーリズムの人気から、関連領域での中国資本の動きも活発になってきており、日本の美容クリニックに対するM&A投資も増加しているとのことで、アリババもグループ傘下の越境ECプラットフォームで、医療ツーリズムの新事業を開始すると発表しています。第一弾として、訪日する中国観光客を対象とした検診・人間ドックなどの自費診療サービスを提供し、第二弾としては美容医療分野、その後は、中国人の海外先進医療に対するニーズに応えるように仕掛けるとのことです。

中国の富裕層にとっては、移動距離や時差など、体にそれほど負担をかけずにより安全で安心な高品質の医療サービスを受けることを考えた場合、まさに日本が第一の選択肢となるでしょう。最近の円安をこれに拍車をかけているのかもしれない。

日本の医療産業もインバウンド需要を取り込むことで、新たな成長が期待されています。



深圳未来创新中心  
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区粤海街道海天二路 19 号盈峰中心ビル 2301  
TEL:86-135-3089-3085  
<https://micsz.jp/>